



興味深い学級ごとの楽しい誕生会

14日(金)に仮園舎での3回目の誕生会を学級ごとに実施しました。旧園舎遊戯室では、合同の誕生会でしたから、私が、全員に絵本を手渡すことができましたが、仮園舎では難しいということで、年長さんのクラスにだけ出向いて手渡しています。2年前に年少だった頃は、軽々と抱き上げることができましたが、子どもたちも日増しに大きくなって、年長さんとなった今では「よいしょこらしょ」と気合を入れないと抱き上げることができなくなりました。

クラスでは、学級担任が、園児の誕生を祝うために、それぞれ工夫を凝らしたプレゼントを用意していました。エプロンシアターでは、ポケットから次々に食材カードを取り出してできる美味しいカレー作りの話、体験的な活動を取り入れ、誕生を迎えた子どもたちが、「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声と一緒に引き上げた大きなカブの話、紙テープを用いて紙の輪を中心線に沿って切ることができる場合、何もせずそのまま切った場合、1回捻じって切った場合、2回捻じって切った場合にどんな輪になるかを考えさせたメビウスの輪の不思議さ、いつもの読み聞かせではなくエプロンシアターを利用した三匹の子ブタとオオカミの話など、どのクラスも工夫されたプレゼントでした。これまでに、本園の先生が、誕生会や行事の度にいろいろ工夫したプレゼントを用意していましたが、具体的な手立てや工夫を見たのは初めてで、楽しく見て回りました。自画自賛で申し訳ありませんが、うちの先生方もやるもんだなと感心した次第です。研修会を利用して、各職員が持っている隠し技(手立て)を紹介し合い、自分のものにして、それぞれの学級、子どもたちに還元できるようになればいいなと思いました。



体全体で表現～年中ボディーペインティング～



先日、年中の3クラスが、手足を使った造形遊びを楽しみました。先生方は、前日に子どもたちが存分に楽しめるようにとの熱い思いから、教室一面にブルーシートと段ボールを敷き、その上に模造紙大の画用紙を準備しました。

さて、子どもたちは、最初に先生の話聞いて、所謂、ボディーペインティングに取り掛かります。初めは、手や足にだけ絵の具を塗って、恐る恐る白い画用紙の上を歩いたり、押さえついたりしていましたが、次第に、絵の具の心地よい感触を感じると、みんなで手足にべったりと絵の具をつけて、両手をグルグル回したり、滑ったりして、自己表現を楽しみました。白い画用紙も単色の手形、足形から、2色になり、とうとう全ての色が混ざり合い、一面が混色で塗り上げられました。

幼児教育の専門家によると、幼児期のフィンガーペインティングやボディー・ペインティング等の造形遊びは、幼児教育の中核であり、人間形成に必要不可欠であると言ひ、完成した絵が問題ではないと述べています。指導のねらいは、次の通りです。

- 自由に感触を楽しみ、色が混ざり合っていく面白さを感じさせる。
- 気持ちを開放させ、柔軟に自己表現させる。
- さまざまなものに興味を持ってかかわり、遊びを楽しませる。

子どもたちの絵を見て、アクション・ペインティングの旗手と呼ばれたジャクソン・ポロックの作品を思い出しました。彼は、床一面に敷き詰めたキャンパスの周辺を歩きながら、刷毛やコテで絵の具を滴らしたり、垂らしたりした画法を生み出した人として有名です。子どもたちの中からそうした画家が出てくるかもしれませんね。将来が楽しみです。